

第 26 章 本村遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

本村遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約 800 m、砂川堀の左岸で標高 15 ～ 20 m に位置する。遺跡内には旧砂川の流路であった埋没河川が幾筋も認められ、それに取り残されるように微高地が存在する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。

砂川堀の流域には多くの遺跡で、旧石器時代からの人々の活動の跡をみることが出来る。現在においても砂川の果たす役割は当時にも増して大きいものであるが、残念ながらその役割は大きく異なり、用水機能としての砂川から排水機能の砂川堀と言うのが現在の状況である。市内を流れる砂川堀も河川改修により、その姿を都市下水路に変え、往時を忍ばせる面影は残されていない。

周辺の遺跡では、砂川堀を挟んで縄文時代中期の大集落と奈良平安時代の製鉄関連遺跡である東台遺跡、旧石器時代の大井戸上遺跡と西台遺跡が位置する。左岸には旧石器時代～縄文時代の小田久保遺跡、旧石器時代～近世の大井氏館跡遺跡が位置する。本遺跡が中世から近世にかけての中心的な集落とするならば、大井氏館跡遺跡は近世川越街道整備以後の中心的な宿場及び、集落とみることができる。いずれにしても、町内における砂川堀流域の本村遺跡周辺は、旧石器時代より良好な生活・住環境であったことがわかる。

2020 年 4 月現在、137 地点で調査を行い、旧石器時代の礫群・石器集中、縄文時代の落とし穴・炉穴、中世～近世の掘立柱建物跡・方形竪穴状遺構・井戸・溝・柵列・地下式墳・茶毘跡などを多数検出している。

第 72 表 本村遺跡調査一覧表

地区地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 () は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
113-b	市沢 2-2-3	(2005.5.9・10)	162	(27)	個人住宅	ビット、柵列		市内 2
114	市沢 3-2-1・12	(2005.10.21～28)	887	(129)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 2
115	市沢 2-10-6	(2005.11.21～29) 2005.12.19～2006.1.31	573	(170) 170	分譲住宅	中世掘立柱建物跡 4、土坑、ビット、溝、井戸、中世陶磁器等		市内 2
116	市沢 2-10-4 の一部	(2006.1.17)	168	(9)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 2
117	大井 2-11-4・6	(2006.3.22～4.14)	1,582	(1,487)	店舗	土坑、溝、ビット、柵列、近世陶磁器		市内 2・3
118	市沢 2-12-13	(2006.5.24・25) 2006.5.25	257	(80) 80	個人住宅	落とし穴、遺物なし		市内 3
119	市沢 3-4-24	(2008.5.27～6.4) 2008.6.4～25	559	(245) 245	共同住宅	土坑、ビット、地下式坑、カワラケ等		市内 5・6
120	市沢 2-2-2	(2008.12.18)	141	(15)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 6
121	市沢 2-11-9	(2009.4.22)	150	(15)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 8
122	市沢 2-11-26・27	(2009.5.25～6.3)	301	(121)	宅地造成	地下式坑、カワラケ等		市内 8
123	市沢 2-7-2	(2010.7.5～9)	619.57	(218)	宅地造成	遺構遺物なし		市内 10
124	市沢 2-6-1	(2010.7.8～12)	428	(80)	宅地造成	土坑		市内 10
125	大井 2-12-17	(2010.9.6)	143	(40)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 10
126	大井 2-12-2	(2010.10.4～6)	611	(126)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 10
127	大井 2-12-5・16・18	(2010.11.4～8)	417	(112)	分譲住宅	旧流路、遺構遺物なし		市内 10
128	大井 2-18-1	(2014.11.17～27)	327	(103.5)	分譲住宅	ビット、溝、井戸、遺物なし		市内 20
129	市沢 1-1-8	(2012.8.28)	262		個人住宅	遺構遺物なし		市内 15
129	大井 2-20-4	(2015.11.5～13)	1,253.9	(397.3)	宅地造成	ビット、陶磁器		市内 22
130	大井 2-16-17	(2015.11.16～20)	776	(263.3)	分譲住宅	土坑、ビット、土器		市内 22
131	市沢 2-8-2	(2016.3.4～8)	135.18	(22.18)	共同住宅	遺構遺物なし		市内 22
132	大井 2-17-9	(2016.8.4・5)	212	(63.2)	分譲住宅	溝、陶磁器		市内 24
133	大井 2-7-6	(2016.10.11)	107.54	(18.75)	個人住宅	ビット、遺物なし		市内 24
134	大井 2-20-2・3・9	(2017.6.5～16)	2,670.6	(655.4)	宅地造成 開発道路築造	ビット、溝、磁器		市内 24
135	大井 1-4-9・10 の一部	(2018.9.19)	698	(52.52)	分譲住宅	遺構なし、陶磁器		市内 25
136	市沢 2-4-7	(2018.10.17～19) 2019.4.11～23	651	(140.7) 60	分譲住宅	旧石器礫群、落とし穴、土坑、ビット、溝、地下式坑、段切、石器		市内 24
137	市沢 2-9-1・8・9	(2019.4.8・9)	843	181.99	分譲住宅	ビット、遺物なし		市内 25



第148図 本村遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

II 本村遺跡第 135 地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2018 年 9 月 4 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2018 年 9 月 19 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 4 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 100 cm である。

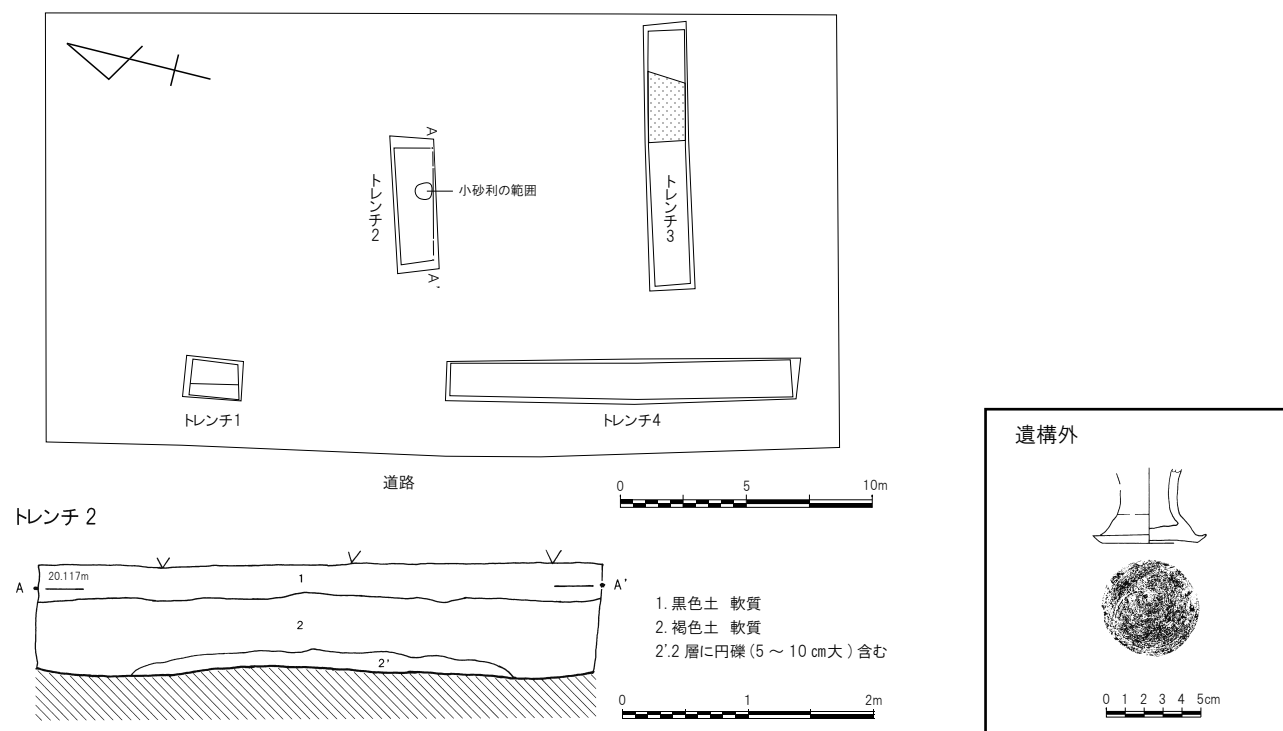
調査の結果、遺構は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

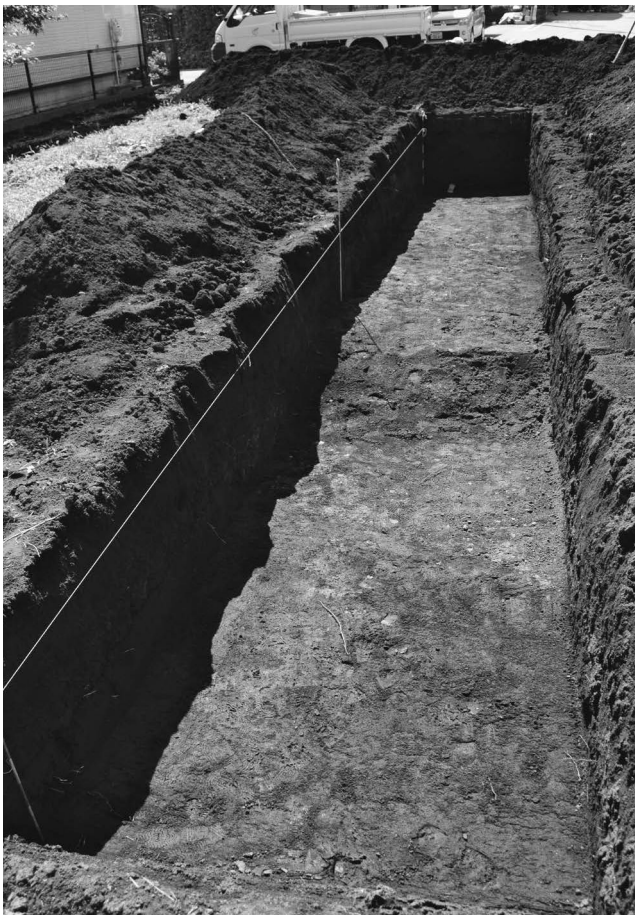
遺物は表土より出土した。図化できたものは 1 点のみで、信楽焼の脚付受付皿。19 世紀以降のもので、外面に透明釉を施す。

III 本村遺跡第 136 地点

調査は分譲住宅建設に伴い、2018 年 10 月 17 ～ 19 日に試掘調査、2019 年 4 月 11 ～ 23 日に本調査を実施した。詳細については、ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第 25 集『市内遺跡群 24』(2020 年 3 月刊行)にて報告済みのため、本書では割愛した。



第 149 図 本村遺跡第 135 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/60)、出土遺物 (1/4)



本村遺跡第 135 地点トレンチ 3



本村遺跡第 135 地点調査風景

遺構外



本村遺跡第 135 地点出土遺物